

平成23年 5月23日

川崎市議会議長 大 島 明 様

多摩区

よみうりランドの危険な盛り土から
菅仙谷を守る会

ほか 140名

よみうりランド内の巨大な盛り土の安全性に関する請願

請 願 の 要 旨

平成21年7月、株式会社よみうりランドは、私たちが住む多摩区菅仙谷の谷戸の真上に、40万立方メートルの土砂を埋め立てる計画を出し、アセスの手続きが行われました。私たちは、埋め立てに使う土砂が、「稲城砂」という極めて崩れやすい危険な砂であり、万一崩れたら狭い谷戸に一気に押し寄せ、住民の命も財産も流されること、みどりや自然を破壊すること、かつて決壊した調整池の安全性などを指摘し、議会にも陳情を行い、環境委員会で2回審議されました。その結果、平成22年3月に市が公告したアセスの審査書では、「工事の実施に当たっては、盛土工法、排水処理、法面保護等について、第三者による専門的な見地からの意見を踏まえ、その妥当性の確認を行うとともに、市関係部署と十分協議すること。また、新たに形成される盛土斜面については、計画地が谷戸地形の上流部にあることからその下流域の住民等に対し、施工方法等を説明するとともに、その斜面の安定が確保されるよう、維持管理を徹底すること。」という異例の指摘がされました。

私たちはさらに平成22年4月、宅地造成許可に当たっては、稲城砂への安全対策、地下水脈への対策、調整池の補強などを求めた陳情を議会に行い、同年7月にまちづくり委員会で審査いただきました。委員会では安全性の確保のた

めに、ボーリング調査の結果や第三者の専門家から出る答申の内容が明らかになった段階で再審査をするという結論になりました。

その第三者の専門家だという「(仮称)よみうりランド内埋め立て工事評価委員会」の答申なるものが平成23年3月末に出され、株式会社よみうりランドは4月25日、突如自社のホームページにだけ開催を発表して、「よみうりランド内埋め立てに関する説明会」を行いました。たまたまこの開催を知りえた住民が知らせなければだれも参加できませんでした。内容も、説明は専門的な話を一方的に行い、質問も十分できなかつたので、再度の説明会を要求すると「もう行わない」という返答でした。アセスの審査書やそれまでの市の指導を無視し、まともな説明をしない事業者の態度に、怒りを禁じえません。

第三者の専門家なるものによる答申が3月末になってしまったため、「再審査をする」と決めていただいた議会は改選となり、陳情は廃案となりました。しかし、私たちの疑問に事業者は何一つ答えておらず、この埋め立てによる危険性への不安は全く払拭できません。あらためて、市が市民の命と安全を守るべく事業者に対し強く指導するよう、議会の御尽力をお願いするものです。

請 願 項 目

- 1 「(仮称)よみうりランド内埋め立て工事評価委員会」の答申を公表させ、真の第三者の専門家による検討をやり直すこと

4月25日の「説明会」で、「評価委員会の指摘についての対応事項」という項目の説明を、当の評価委員会が行いました。これは、評価委員会が第三者ではなく、事業者であるということです。答申の本文は公表されず、資料では東京都稲城市の「南山東部区画整理事業造成工事検討委員会」答申の文言とほとんど変わらず、これを写したのではという疑問さえわきます。この専門家といわれる方々は全員が現職の民間地質調査会社の役員で、業界関係者では中立とは言いがたい構成です。事業者の都合のいい答申になっているのではという疑念を払拭するためにも、直ちに答申を公表させ、あらためてこれまでの市の指導に従い、利害関係のない専門家に評価をしないよう指導してください。

- 2 東日本大震災の経験を生かし、大地震を想定し盛土の安全対策を行うこと

搬入する土砂は関東ローム層の土に限定し、稲城砂は持ち込まないとのことです。しかし、関東ローム層も、40年前の生田緑地での事故を持ち出すまでもなく、大変滑りやすい土です。東日本大震災では、丘陵地の地滑りが盛土部分に集中しており、盛土の危険性があらためて指摘されています。想定している地震の大きさは、「これまでの基準に従い800ガル」（水平加速度）であり、東日本大震災では2900ガルの地点も観測されており、これまでの基準では納得できません。東日本大震災並みの震災を想定し、それでも絶対に崩れない対策を打つよう指導してください。

3 調整池の構造を明らかにし、地震や豪雨対策を万全にすること

安全性の基準もないまま昭和41年に完成した調整池が、盛土埋め立ての真下に位置し、過去にもこれがあふれて谷戸に被害を及ぼしていることから、この安全性が大きな問題点でした。調整池の容量を増やし、最下流の堤防の補強は行うとの説明はあったものの、ボーリング調査があったかどうかもわからず、議会で問題になった調整池本体の構造については、何の説明もありませんでした。本当に100ミリ/hを超える雨が降っても調整池が安全なのか、その下の川は大丈夫なのか、不安は募るばかりです。盛土予定地や調整池のボーリング調査結果を公表し、調整池の構造が東日本大震災に耐えられ、しかもゲリラ豪雨など100ミリ/h以上も降るような雨にも対応できるよう、指導して下さい。

4 説明会を開催させること

これだけの巨大な盛土を行う事業者なら、アセスいかににかかわらず、十分な説明を行い、理解を得るのがあたりまえです。この工事の重大性にかんがみ、説明会を開催するよう指導してください。

紹介議員

廣	田	健	一
月	本	琢	也
井	口	真	美
三	宅	隆	介
猪	股	美	恵